特別支援教育の扉 №１４４　　令和７年５月９日発行

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター　加賀谷　勝

「オノマトペの魅力」

オノマトペは、幼児語と思われがちですが、子どもだけでなく大人にもプラスの作用をもたらします。Appleの創始者スティーブ・ジョブズは「オノマトペの魔術師」と呼ばれ、特に注目してほしいときや素晴らしさを伝えたいときに、「ブン」「ボン」というオノマトペを使い、観客の想像力を膨らませるプレゼンを行っていたと言われています。

１　オノマトペの種類

（１）擬態語

物の様子や感覚、動きを表現する言葉で、感覚的な表現に適しており、相手にイメージを伝えやすい。例：ふわふわ（柔らかく軽い様子）　キラキラ（光が輝く様子）

（２）擬音語

実際の音を表現する言葉で、臨場感のある表現が可能になる。

例：ドン（大きな音や衝撃）カチカチ（硬いものがぶつかる音）　ザーザー（雨が降る音）

（３）擬声語

人や動物の声を真似た言葉で、感情をそのまま伝える効果があり、親しみやすさを感じさせる。例：ワンワン（犬の鳴き声）　えーんえーん（子どもの泣き声）

２　オノマトペの効果

（１）子どものやる気スイッチをＯＮにする

知的過程を通らずに直接情動に働き掛け、イメージを喚起させやすいため、学習や仕事の前にオノマトペを使うと、やる気が上がる。

例：「パッと机に向かって、テキパキ課題を終わらせて、ササッと帰る準備をしよう」

（２）短い文章で意味を分かりやすく伝え、記憶に残る

音や状態をそれらしい言葉に当てはめて表しているので、言葉の意味を正しく理解できなくてもストレートに伝わる。

例：「喉の奥に水が当たるように音を出しながらうがいをしてね」→「ガラガラ・ペー」

（３）言葉に興味をもつきっかけになる

２語の繰り返しが多いので、発音しやすく覚えやすい。また、単純に音として“面白さ”や“楽しさ”があるため、言葉を難しいと感じにくくする。

例：犬を見たときは「ワンワンいたね」　ドアをノックするときは「コンコン」

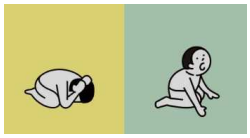
（４）運動指導や身体表現に向いている

体の動きや動作と連動しているものがたくさんあるので、子どもは自分で想像しながら積極的に活動に参加できる。

例：モグモグ食べる　チョキチョキ切る　ピタッと止まる　背中をピンと伸ばす

元巨人長嶋監督の指導→「このスイングはヒュイ」「このボールのとらえ方はヒョイ」

私が年長児を対象に行っている『キッズクラブぐんぐん』でも、正しい姿勢を教えるとき、「グーペタピン」と伝えています。子どもたちは、私を見るだけで背中をピンと伸ばします。そんな姿を見ていると、私は「めちゃめちゃ」うれしくなります！



とれたて直送便

「ダンゴムシからカエルへ」－2025. 4.15　秋田さきがけより－

地震が起きた際の「ダンゴムシのポーズ」は、下を向いてしまって、危険を見付けにくいため、周りの危険に気付いて避難できる「カエルのポーズ」の重要性がうたわれている。これまで訓練は避難に何分かかったなど、教師側の防災管理が目的になっていたが、これからは子ども自身が避難する力を育むための工夫と、災害の特性に合った訓練が必要となる。